



念じられ 照らされて

奥能登の過去と現在

長田 浩昭



＜略歴＞
1960年能登町に生まれ、珠洲原発反対運動に関わる。現在、丹波篠山市・法伝寺住職。真宗大谷派奥能登ボランティアセンター代表。

能登半島の先端・珠洲市はかつて原発誘致の賛成、反対で揺れていた。人間関係に大きな傷跡を残しながらも、二〇〇三年十二月に電力会社を撤退させていた。それから二十年後の元旦、能登半島を巨大な地震が襲った。関西電力の予定地であった高屋地区が震源であり、山が崩れた高屋は十日間あまり孤立集落となった。一方、中部電力の予定地であった寺家地区は津波が襲い、海岸線の家々は壊滅的被害を受けた。

震災から十二日目、知人を探しながら珠洲市のいくつかの避難所を回り、被災者同士が互いの安否を確認して喜んでいる光景を何度も見た。そして、「原発がなくて本当によかったね」と笑い合う被災者の姿に幾たびも出会った。中には、「今となつては、なくてよかったんやな」と、おそらく当時は原発推進であったであろう人の姿にも出会うことができた。それらの光景を見て、ひよっとすると、この地震が、原発問題によって残された人間関係の深いシコリのようなものを、かき消してゆくのかもしれないと感じて涙が出た。

もしも、原発が建設

されていたら何が起ったのかと想像するだけで恐ろしくなる。孤立化した集落はもちろん、避難する道路も寸断され、屋内退避のための建物も倒れ、原発から出た放射能を防護するものもない中で、多くの住民が被曝を余儀なくされたに違いない。また条件によつて放射能は、西日本や中部地方に流れ、どれだけの日常を奪ったか計り知れないだろう。奥能登のみならず、この国にとつても放射能による複合災害に至らなくて本当にかつたと思う。

しかしながら、奥能登の地震の被害はあまりにも甚大だった。震災から丸二年、奥能登の家屋の公費解体数は二八、〇〇〇戸を数えた。八割ほどの家屋が更地になったようだ。

過疎と高齢化に悩んできた地域の中で、新築することの出来る人は多くはないだろう。そんな現実を前にして、私の親戚、知人、同級生たち、そして大谷派の仲間たちがいる。

私は二十九年前に能登を離れ、たまたま被災することになった。能登を熟知している者として何かできることはあるだろうか。全国にカンパを募り、「真宗大谷派奥能登ボランティアセンター」を開設したのは、震災から一か月後だった。

私たちの活動の中心は「出張居酒屋」である。様々な料理とアルコールを並べ、飲食無料で被災者に提供している。現在は主に仮設住宅の広場等で開催し、七十回を超えた。居酒屋のテーブルでは、区長の呼びかけで全員の自己紹介が始まることがある。地震が人と交わろうとする心も、人が集まる場所や機会さえも奪っていったからである。それでも、人と人が出会う場として、私たちの「出張居酒屋」が機能しているのならば、ここにこそ続けていくことの意義を見ていたい。

謹賀新年

高山別院輪番

三島 多聞

明けましておめでとうございます。本年も昨年同様、皆さまと「ご坊さま」を創り上げて参りたく存じます。何卒よろしくお願い申しあげます。

別院駐車場

昨年四月より別院駐車場の運営方法が変わりました。従来、駐車受付を係りの者が行っていたが、出入りのたびに時間がかかっていました。それを解消するために「タイムズ24株」の業者によるシステム化した運営にいたしました。自動車・バスの出入りは、写真で車のナンバーを読み取り、帰りは境内にある精算機で当事者が料金支払いをするというものです。このことにより、車の出入りが渋滞なくスムーズとなりました。

別院の蓮池

昨年より雑草の侵入で、美しい蓮池でなくなり、その手入れを始めましたがなかなか改善されません。雑草の根が相当深いようです。小坂種苗さんの協力を得て、気長に蓮池の回復に努めていきたいと思っています。

第44期 真宗公開講座

(参加費500円)

第4回 1月29日(木) 午後2時～

講師 松金 直美氏 (大谷大学講師)

講題 地域をつくる真宗

第5回 2月24日(火) 午後2時～

講師 星野 暁氏 (東京教区茨城2組 浄安寺住職)

講題 十余か国のさかいをこえて
会場は別院御坊会館

高山二組 婦人聞法会

(参加費200円)

日時 2月18日(水) 午後1時～

会場 高山別院 御坊会館

講師 和田 英昭氏

(郡上市照明寺住職)

講題 本当に生まれたのか?



新刊紹介 「中村久子とお念仏 久子の二河白道に学ぶ」



著／三島多聞

中村久子さんの念仏の信心の道程が述べられています。内容(目次)は

序章 私の出遇った中村久子夫婦
前編 中村久子の戦つて来た道
中編 中村久子の超えて来た道
後編 中村久子の憶念

親鸞聖人の教えに導かれて念仏の教えに出遇っていくあり様を、善導大師の「二河白道」の教えを通して語っています。

定価二、七五〇円(税込)。一月八日より別院及びブックスアイオー(岡本町)で販売。

家族で語ろう

医療の現場で 「生きること」を学ぶ⑬

岸上 仁

生きる意欲を支えるもの(1)

― 菩提心が求めること

前回は詩人・岩崎航さんと、岩崎さんに出会った高校生のことをお伝えしました。その高校生にとって、岩崎さんと出会ったことは新たな第一歩の力となったのでした。

岩崎さんは、生きる意味を失うという絶望の中にあつて、生きることを選びました。これまで確かめてきたように、老病死の苦悩とは、単に身体的な苦悩だけではなく、生きる意味を失うという問題に直面するということです。周りを見渡してみても、生きる意味、生きる喜びと信じられるものが何もない、全く希望がないという絶望の中で、生きる意欲が生まれるとは、一体どういうことでしょうか。

以前ご紹介した「安楽死」を選んだ女性も、「私が私でありたい」と願い、ほんとうに生きる道はないのかという葛藤の中におられました(二〇二五年一月号)。葛藤し苦悩したのは「私が私でありたい」という意欲があつたからこそです。しかしその意欲は死という道を選んだのでした。

それはほんとうに、私が私として全うしていく道だったのでしょうか。死を選ぶことが良いか悪いか、ということ問うているのではありません。何を意欲として生きることが、ほんとうにいのちを全うすることなのか、という問いでなければなりません。

岩崎さんは、絶望の中にあつて、「自分はなんのために生きてきたんだらう」という問いが起つたと言います(「自殺」を「生き抜く」末井昭×岩崎航、『SYNODOS』二〇一五年五月二十日掲載の記事より)。そして「ようやく病を含めての自分として生きるという気持ちで固まった」と述べています。岩

崎さんは最初「この身体で生きていても希望がない」と死を考えました。岩崎さんはそのことを振り返り、「人と自分の境遇を比べてしまった」と、自分のいのちに優劣をつけて、いのちの意味を閉ざしていたことを語られています。「私が私でありたい」の「たい」はいのちの意味を閉ざす「たい」だったので

しかし、岩崎さんは「問い」を通して、「私が私でありたい」という「たい」の奥底に、「病を含めての自分を生きたい」という「たい」の心に気づかれたのです。「たとえ何ものも／自らを／生きることの／芯までを／焼き尽くすことはできない

(岩崎航「点滴ポール」生き抜くという旗印)」という詩を詠まれています。その「生きることの芯」こそ、仏教の言葉でいう「菩提心」ではないかと受けています。「ほんとうの自分自身を生きたい」という心です。いのちに「よい」か「わるい」かの意味を決めていく心ではなく、「よい」も「わるい」も

ない、自分自身を生きたいという心が、生きる意味を開いたのです。苦悩や葛藤の中に、生きる意味を閉ざす心と同時に、生きる意味を開く心があつたのです。

岩崎さんはその後も葛藤されまです。「気持ちがつすっきり整理されたわけではない、そこからもいろいろな葛藤があつて、苦しんだり悩んだりしたんですけど、やっぱり最後には自分、病をもちながら生きる、病気を含めての自分なんだ。そのままの自分で生きればよい、人生を生きればよいんだって心から思うことができたんです」(「自殺」を「生き抜く」末井昭×岩崎航)と述べられています。葛藤がなくなるわけではない。けれども、「生きる意味などない」と決めてしまい、意味を閉ざしていくのではなく、葛藤に立つて歩まれるのです。

では岩崎さんはなぜ、葛藤に立つことができたのでしょうか? そのことについて、次回確かめていきたいと思っています。



↑引用元
「自殺」を
「生き抜く」

別院定例法座

午後1時から

3日 三目のご坊

1月 修正会

2月 講師 井野了慧氏
(高山教務支所書記)
講題「鬼はそと」

28日 親鸞聖人で命日法座

1月 講師 白尾匡氏
(長圓寺住職)
講題「続・街道と真宗寺院」

2月 講師 中川唯真氏
(岐阜高山教区駐在教導)
講題「みんな
なかよくいたします」

ひだご坊



URL: <https://hidagobo.jp/sermon/>

1月1日から2月28日の期間は下記の方々の法話を随時掲載してまいります。

- ・佐藤 義晃氏 (了徳寺住職)
- ・夏野 晃遵氏 (満成寺住職)
- ・野崎 千晴氏 (西正寺坊守)
- ・森 香里氏 (秋聲寺前坊守)

大谷婦人会 定例法座

1月11日(日)
※新年互礼会

2月11日(水)
講師 三島多聞 別院輪番
いずれも午後1時から

帰敬式受式
済みの方へ

法名紙
専用額

法名紙を入れて掛ける・置くことのできる額を制作いたしました。

金額
2,000円

お申し込み 高山教務支所
電話 0577-32-0776



保険
タイム

〒506-0059
高山市下林町 916-1
※ひだしん西高校前支店となり
TEL 0577-35-1005

迎春
本年もご愛顧の程
お願い申し上げます

新春
セール
開催中

INORI PLACE
工匠館
桐生町2-105
0577-35-3038

ブックス・アイオー
宗教関連書は二階売り場
ゆつくりお過ごしください。
TEL 〇五七七一三四一七六八

慈愛・共なる灯り
高山電気工事株式会社

自主出版

山都印刷株式会社
高山市西之一色町二丁目九〇一八
TEL 〇五七七―三二一―四九五

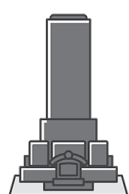


くすだま
平瀬酒造店
TEL 34-0010

あなたの本、作ります。
自分史・作品集など

高山市桐生町7-150-3
有限会社リプロ
TEL 0577-35-0350
E-mail: info@libro-ops.net

お墓の新設 お墓の修繕



明けまして
おめでとう
ございます
本年も
どうぞよろしく
お願いいたします



高山墓石店
090-7677-4883
〒506-0814 高山市滝町1362
<https://www.takayamaboseki.com/>

記事についてのお問い合わせは飛騨御坊真宗教化センターまで ☎(0577)32-0776